毛沢東思想は
百戦百勝の武器

外文出版社
北京
出版者のことば

中国には、いま、労働者、農民、兵士、大衆がマルクス・レーニン主義を掌握する新しい時代があられる。本書に収められた四編の文章は、中国人民解放軍による毛沢東思想の活学活用のすぐれた文章です。

毛沢東思想は百戦百勝の武器

毛沢東思想がわたしに無限の知恵と勇気を与えてくれた。

唯物弁証法を用いて、戦士の思想転化の工作をおこなう。

中国人民解放軍空軍某部隊『航空兵英雄中隊』中隊幹部

董小海…21

陈金元…47

中国人民解放軍某部隊幹部指導員

王道明…69
毛沢東思想は百戦百勝の武器

中国人民解放軍海軍某部隊「海上猛虎艇」党支部

一九五八年に、わたしたちの艦は僚艦と協力して、アメリカ製の蔣介石の軍艦「沱江号」を撃沈しました。また、一九六五年の中華海戦でも、わたしたちは僚艦と協力して、蔣介石二倍のアメリカ製のフリゲート艦「永昌号」を撃沈しました。もしそれならば、毛沢東思想にたより、毛沢東思想で武装した人びとの威力はかかけることができるが、軍艦の技術的性能は数字ではなく、かかることができるか、もしかたっけてなのでしょうか。ほかにでもない。毛沢東思想で武装した人びとの革命的革命精神にたよったので、海戦にかれば、軍艦が大きくて、はやくて、火力の強い方が、戦闘力が大きいかから、勝つこと1
ことができる。と一部のものは考えています。けれど、この考え方が誤りであることは、わた
たちの実践が証明しています。海軍の技術の条件がどんなに複雑で、装備がどんなに近代化さ
れたものである。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。一方
敵は、人をとる技術のぞきである。敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制
である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制
である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制
である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制
である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

敵は、人をとる技術のぞきである。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制
である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考え
られないものだからです。軍の体制である。軍は人によっては考えられないものだからです。軍

か者は、真の知識と勇敢さをもつことはできません。わたしたちは、毛主席の階級と階級関係についての論述を実践し、結びつけて学び、運用することを、思想建設の基礎課程としています。そして、帝国主義と新興階級にたいする戦争をうけてきました。かれらは毛主席の著作の学習をつうじて、自分たちの悲惨な生活を打倒し、革命を進めるために死ぬことを、彼等は、「一生と死は対立したものです。また、統一したものを、戦士たちは知っています。かれらは、『生と死は厳重に分かれる』と皆さん、家族の人民が必要とするならば、そこでも誰も困ることもなく自分の生命をさげなければならないのです。

毛主席はこうのべています。「世界観が変わるということは根本的な転換である。」人民内部の矛盾を正しく処理する問題について、私をつって「公」をう立ち立てる闘争のくりかえしをつけています。そして、共産主義の世界観を確立する過程は、私をつって「公」をう立ち立てる闘争のくりかえしをつけています。共産主義の世界観を確立する過程は、姑息がなければならない。先輩たちが革命のために身を犠牲にしなかったならば、今日の全国人民の幸福な生活はありません。将来的子孫々の幸福もないと考えております。わたしたちは必要ない犠牲をはらえているのではありません。
革命は、無私なる精神から生まれ、偉大なる新制度思想から生まれてくるものです。革命戦士

毛主席の著作をもつともよく学んでいるものは、もっとも勇敢です。

革命戦士が戦闘の最中に、敵をおそれないのは、かれらがふだん、苦しみや重い仕事に耐えぬく

勇気がなければ、戦闘のさい、先頭を切って敵陣に突っこんでいく勇気などわいてきはしない

のです。荒れ狂う風波をおかして航行するとき、船酔、おう吐でくるしものも少なくありません。
せん。けれど、吐きながでそう、操作はつづけなければなりません。冬になると、海上の風雨
が、するとい切っ先のうちに顔をさします。夏は夏で、甲板は焼けるように熱直升り、艙内
なければならない。と、戦士たちに教育されています。このような苦しい生活を前にして、わたしたちは、
困難にあっても前進し、苦しいこの環境を革命的環境をきたえあげるための大きな努力をし
めるのが、それまで。かかれは練習をつづけています。たくましい革命戦士は、困難や苦しみ、荒
れた風波のなかで鍛えられて成長しなければなりません。たとえば、通信兵の水手たちは、いつ
ても狭い場所で練習をしてはおうか、とすすめると、かれはあっさりとこう答えます。「ふだん、苦
しゅに耐えぬかいようでは、いざというときに肩ばりがきかないからね。わたしたちの幹部、戦士は、
なぜ、苦しい困難な条件のもとでも、自由的に鍛錬をつづけら
れのでしようか。それは、同志たちに、毛主席の著作を学習して、真心から人民に奉仕する
という思想的下地がでているからです。戦士たちはこうしている。」

で歩哨に立ち、パトロールをしているのは、
大多数の人びとの幸福のためなのだ。過去、革命
の先輩は苦しみに耐えぬいて、新しい世界をつくら
れたが、彼の努力はすでに多く寝まれている。ただ、われわれが何時か、たとえ
めのない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

今日、われわれは苦しみを耐えし
作の学習ノートにつきのような感想を書いている。だが、われわれが何時か、たとえ
めのない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

信号兵楊瑞松は、毛主席の著作
のふと、共産主義の新しい世界をつくら
れたが、彼の努力はすでに多く寝まれている。ただ、われわれが何時か、たとえ
めのない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

昨日、学習するたびに自覚を高めてきました。楊瑞松は、毛主席の著作を
のふと、共産主義の新しい世界をつくら
れたが、彼の努力はすでに多く寝まれている。ただ、われわれが何時か、たとえ
めのない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

勇猛になることができるのです。水兵楊瑞松は入隊いらいに「人民に奉仕する」を三十何回も学
習し、学習するたびに自覚を高めてきました。楊瑞松は、毛主席の著作を
のふと、共産主義の新しい世界をつくら
れたが、彼の努力はすでに多く寝まれている。ただ、われわれが何時か、たとえ
めのない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

戦ーいにそんでもっとも少
ない戦士こそ、困苦にみちた試練に耐えぬくことができるのであらう。」

われわれが、あらびのなか
のように努力をつめつけられましたが、かれはそのままおとおとしい、通信の任務をりっぱに果
たしました。「小さなトラ」といわれていた粟穂 siti, 毛主席の著作の学習によって節金りの戦士となったのです。かれは「人民に奉仕する」を学習したあとで、つぎのような誓いのことばを書きしもっている。「人民に不利なことは、たとえ首を断たれようと、つらはやらない。人民が中には、ぼくは負傷しても、腕一本、足一本あるかぎり、あくまで戦いつづける。戦闘に有利なことであれば、たとえ最後の血の一滴を流しつくしても、ぼくはそれをやりぬく」。このように、人民と世界人民のための勇敢に身をさらげる風格を事をなげた戦士は、つらとも勇戦で、もっとも節金いので、もっともゆたかな知恵をもっているのです。

勇敢にたたかう革命精神が必要であるが、巧妙にたたかう科学的態度も必要である。

敵の大型軍艦にたいして、わたしたちはそれを痛くしく、沈むべき確信をもたなければならいないばかりか、同時に、それを痛くし、消減できるという自信をもつようにになければならない。敵の大型軍艦が攻擊できるかどうかについて、かっした見方がある。そこで全面的な見方をもつように戦士たちを導いていくために、わたしたちは毛主席の著作のなかからこの問題にたいする解答をみつけすることにし、さらに「われわれの小型艦艇、小型艦砲で敵の軍艦を駆逐できるか」という題目を話し合い、さらに全面的な見方を全部言わせ、見解を発表させて、具体的な分析をくわえながせた。全世界のどんな奇跡でもつくりだすことができるのである。「思考論的歴史観の破壊」と教育されている。
毛沢東思想という神通力のある無敵の秘宝があるかぎりにわたしたちはかならず一人間世界の奇跡をつくり出すことができるのです。

手本にするような前人の経験がないばあいには、どこからその方法をみつけたのですでしょうか。毛泽东はわたしたちは、人民大衆は限りない創造力をもっている、と教えています。わたしたちが毛泽东の指示にもとづいて行動すればするなら、三人よれば文珠の知恵というように入川でも船でたることができるように、方法というもののはいつのばあいでも人びとがみつけだすものなのです。

討論の結論は、小型艦艇でも完全に大型軍艦をうち破ることができ、しかも困難でないことができる。しかし、かならず革命的気概と科学的態度をもたなければならないうちに、すでに大きな困難があるけれども、毛泽东が早くからわたちに教えていよう、すべての事物で、二重性をもっている。困難と困難でないことを実感するのです。同志たちはこう言っていたから、困難はいつまでも困難です。

同志たちはこういう思想に導かれ、敵艦は鋼板でつくれているけれども、完全無欠で攻撃しにくい戦闘で、すべての事物はまた、内面に互いに連係しているのです。しかしがたたかいうちに攻撃しにくい戦闘で、攻撃しにくい戦闘は互いに制約するものであることを教えています。敵艦の各部位も同じで、攻撃しにくい戦闘で攻撃しにくい戦闘を攻撃しやすい戦闘と結びつけるように、攻撃しにくい戦闘を攻撃しやすい戦闘に相対的なもので、一定の条件のもとで互いに連係しやすい戦闘はいつまでも困難です。
文の内容が読めません。
人間の精神状態です。崇武戦のとき、敵艦を遠くはなれていて、わたしたちの艦砲がまだそ
れほど敵に響きを与えていないうちは、かれらの艦砲射撃はひじょうに規則的で、猛烈をきわ
めました。ところが、敵艦に近寄って、わたしたちの艦砲がひたすら威力を発揮すると、かれ
らはさかり乱れて、艦砲射撃もまったく打たれてしまった。また別の海戦で、
相手が技術装置にたよって遠距離で戦うなら、
わたしたちは勇敢さと機知をたとよって近接戦をおこ
実戦の練練を済ませることに、毛利家の人民戦争の思想にいたるわたしたちの体得はよいよ
れのやり方で戦う。勝てるなら戦い、勝てないのである。
林彪同志の『人民戦争の勝利万歳』

相手が技術装置にたよって遠距離で戦うなら、
わたしたちは勇敢さと機知をたとよって近接戦をおこ
実戦の練練を済ませることに、毛利家の人民戦争の思想にいたるわたしたちの体得はよいよ
れのやり方で戦う。勝てるなら戦い、勝てないのである。
林彪同志の『人民戦争の勝利万歳』
大型軍艦を攻撃することは、ブルジョワ階級の軍事家や修正主義の軍事家にとっては、想像す
るだけで恐ろしいことです。このことについて、私は考えている。どこかでいくらかでも経
験をつんだことがあるのでしょうか。彼らの規定にとづいて戦うならば、もちろん勝利は
から談義にすぎなくなってしまいます。わたしたちは毛沢東思想に立たず、大衆の知恵にたよって、自
分の経験をつむるばかりではないのです。海上での近接戦、夜戦はもちろん危険をおかさな
ければならないが、戦士たちはつきのように正しく立って、自分たちの砲弾をおそれて、敵の大型軍艦を発
見したとき、すぐ「道を謳う」というわけにはゆ
かない。世界のすべてのことはみな人間がしとげたのです。毛沢東思想の指導さえあれば、
わたしたちは本のなかではささらないものや世界でまだとまれていない経験をつくり出す
ことができるのだ。と。

わたしたちは、毛主席の教えにとづいて、敵味方の状況を具体的に分析したのち、海
上で完全に近接戦や夜戦をおこなえるということがはっきりしました。わたしたちはまず政
治の面で、絶対的な優勢を占めていきますし、士気が旺盛で、果敢でねばり強く、勇敢に戦い、
大型軍艦を攻撃する基本的な戦法でもあります。彼らの砲火はいっそう猛烈に火をはさました
ので、あらためて一発を宣言したのが「永昌号」です。
この数年、わたしたちの艦隊が敵機、敵艦を攻撃し、敵の破壊活動に反撃をくわえるな
かでおさめた勝利は、どれも偉大な毛沢東思想の勝利です。毛主席の人民戦争の思想の勝利
です。戦争という実戦のなかから、わたしたちは、毛沢東思想はわたしたちの百戦百勝の武器
です。この武器さえあれば、小型艦艇でも敵の大艦をやっつけることができる。また
強そうに見えるどんな敵でも打ち負かすことができる。このことを、深く体得しました。

（一九六五年八月十四日つづ「人民報」より）
勇さは技術と知恵を生む

「技術がすぐれているとはいえ、肝玉も太くならない」というのがいまます。この言葉は正しくない。

「技術」がすぐれているとも、肝玉も太くならないとも、どの程度の技術を必要とするかなど、技術の役割を正しく評価することが重要である。

「技術」がすぐれているとはいえ、肝玉も太くならない、という言葉だけにおいても、社会の役割にも立たないのです。

「技術」がすぐれているかどうか、社会の役割においては、肝玉も太くならないことも必要である。技術の役割を正しく評価することが重要である。
わたしたちは勇敢な精神をもっているので、戦闘のとき、自信にみちあふっていますし、頭がはっきりしていますし、技術と知恵を十分に生かすことができます。敵機を撃ち落とす必要がある時、日ごろ使えないかった技術や戦法も使いこなすことができるのです。こういうことがありましたので、ある戦闘で、わたしたちの中隊の張以林が敵機を追撃していたとき、その敵機は一万メートルの高空から二百五十メートルの低空に降下して、海の方へ逃げようこうしました。その時、追撃のあいだに、飛行速度はすごいうながして安定させました。ふだんにつけていなかった技術を発揮したのです。こうして、必勝不敗の英雄的な気概をもって、どこでも追いつめ、とうとう敵機を海に撃滅したのです。こうして、空戦の役割を否定するものではありませ

毛主席はこう言っています。「行動の自由は軍隊の生命であり、この自由をうなたえば、軍隊は敗北または消滅に近づくことになる。」「持久戦について」、空中戦は、敵味方の双方をはかいに自動権をうばいあって、受け身にならないようにするたたかいです。自動的地位をうばって、それを保持するにも、自動的地位を自動的地位に転化させるように、勇敢な精神が必要です。けれども、こういう勇敢さは、がむしゃらにやることではありません。自分の自動的地位にあって相手を攻撃するとき、盲目性がとてもひどかったのです。相手が上になって下にいようと、また、その動きがどんなに複雑であろうと、そんなことには一切おかまいないに、きなり猛攻撃をかけましょう。」
た。そして、これこそ勇敢なのだ。主動的座位を保持できるのだと思いこんでいたのです。しかし、実際にはしばしば逆の結果をまねていたのです。わたしのつまづきのような教訓があります。

鈴木政は空中戦の訓練をしたときのことですが、はじめのうち、わたしがかかれていたのは、戦時中の訓練で、相手の動きを観察したり、判断したりすることができず、やたらと攻撃をしかるべきです。鈴木政はわたしの横腹撃てて急上昇をしてきたかと思うと、たちまち速度を落とすと、突然、主動的座位から受動的座位にたたされ、攻撃する座位から攻撃される座位に見わけることができるのです。たとえば、ある敵機は、わたしたちが追いさがるとき、窮地から精神状態や戦法を判断することができます。そこで、空戦は鉄砲を撃つように、相手の動きや手の動きを鉄砲で撃ちあうのとちがいま

精神状態や戦法を判断することができるのです。ところが、空戦の場合は、一方が前にいて他方のほうがよくして死にものぐるいで急上昇します。見るとところかより勇猛のようなです。好

の掛けようとして死にものぐるいで急上昇します。見るとところかより勇猛のようなです。好

勇さは無鋲砲ではありますが、相手の双方の状況にたいして科学的な分析をおこなったのにみだされ

勇さは無鋲砲ではなく、相手の双方の状況にたいして科学的な分析をおこなったのにみだされ

勇さは無鋲砲ではなく、相手の双方の状況にたいして科学的な分析をおこなったのにみだされ

勇さは無鋲砲ではなく、相手の双方の状況にたいして科学的な分析をおこなったのにみだされ
たからです。

その日、戦場は雲が低くかぶれていました。するかしい敵機はそれを利用して身を守ろうと、雲の上すれすれに飛んできました。そのとき、もし、わたしたちがいつものように、四機ばらばらせに雲をつきぬけて飛びあがり、雲の上に出てから編隊をくんで戦闘をはじめる方針をとっていたならば、敵にやすく発見されて、編隊をくむまえに攻撃をうけていることも多いでしょう。たとえば、わたしたちの中隊の同志は、これまで低空で編隊をくんで雲の中突っこんできたという飛行機仲間が衝突するのを恐れていたのでありました。しかし、わたしたちの中隊の同志は、雲の中でも視界がきかないので、へたをすると、味方の飛行機仲間たちが血をまいていたこともあったのである。まあ、雲の中突っこんだとき、雲の中突っこんでいることをも考慮して、思いきって低空で編隊をくんで雲の中突っこんでいるのは、発見したのです。中隊の趙徳安同志は、主動権をうばうために、四機の敵機がぴょくぴょくしながら雲の上すれすれに飛んでいるのを見発見しました。趙徳安、高長吉同志たちはそれに応じて、動きをかげ、無防備になっているところを猛撃して四機のうち三機を撃破したのです。

もちろん、空中戦がいつものように順調にいくほど、かわりません。わたしたちも受動的地位ににおいこまれたことがあるのです。けれども、主動で勝利は、劣勢で受動的地位にあるもので、実際の状況にもとづき、主観的能力のたたらきをうずし、一定の条件をつかうことによつて、優勢で受動的地位にあるものの手から奪取できるものである（持久戦について）。

李寿のチャンスだぞと気が合うのよにわきあきました。こうした受身の、険悪な事態に逆らうため、もし、わたしたちにありません。
が少しでもこわがったり、ためらったりすれば、重大な損失をまねすことになるでしょう。けれど、わたしたちは毛沢東思想で武装した人民の飛行士です。敵の気炎などにはひとえともしないたち、敵に食いつかさんがし、敵もわたしたちに食いさがります。わたしたちは敵に食いさがり、逆にますます敵にたいする憎しみがつり、けってやろうという勇気がわいてきました。そして、敵機から「後方に敵機がいる」と知らせてきたのでは、敵機がいってここに来れないか、逆に敵をこわすために、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。敵の鼻息が荒いので、わたしたちはつづくままで反撃をくわえ、まず敵を精神的に圧倒しました。敵の鼻息が荒いので、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。敵の鼻息が荒いので、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。敵の鼻息が荒いので、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。敵の鼻息が荒いので、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。敵の鼻息が荒いので、敵機から「後方に敵機がいる」と指示をしたのです。
それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消減しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようとするのです。願え、われわれは、敵に勝つ宝刀をもっていきます。それ故に、われわれは敵を消滅しようと
保存する内容は第二義的なものである。「持久戦について」これで、わたしたちは、戦
うとき、なによりもまず敵を消滅することを考えなければならなうし、近接戦は敵を消滅する
のもとよいう方法であるということが理解できた。遠くからでは、射撃の命中率が落ちる
地上で小銃をつきって射撃する場合、目標が固定していても、少しばらんでいると
尺をのぞいて、三つ拍子が一定にするには、ちょっとでもずれる。ところで、この
ところ、空には敵のミサイルが当ることもありうるのです。ちょっとでもずれると、命中
しかばれ、ねらいを定めるのも簡単で、銃を向けるだけで命中するともう少し
と増すのです。この点を、わたしたちは実戦のなかでよく深く感づいた。たとえば、戦
闘では危険を冒してでも決して精神を崩さない。敵を消滅することはできないのです。いざというときには、
1）危険を冒さなければ、虎穴に入るなどは中国のことわざで、毛沢東著『実際論』にみられる。
2）勇敢さとそれをわれわれの絶対的優勢である

1）「徹底した唯物論者はなにものをもおそれない」は、毛沢東思想で武装し、
自覚のあるプ
1）「徹底した唯物論者はなにものをもおそれない」は、毛沢東著『中国共産党全国宣伝工作会
議における講話』にみられる。
ところが、現代修正主義の一部の軍病者は、アメリカ帝国主義が吹聴する「空の優勢」を死
ぬほどそれぞれにいます。けれど、わたしたちから見れば、アメリカ帝国主義の「空の優勢」な
ど、別にたいしたことではありません。かれらのいう「優勢」は、いったいどういうものなのか
どうか、注意が必要です。空飛機の速度がはやく、空対空ミサイルをもって、空対地時間が長い、などという。

アメリカ帝国主義の「優勢」をやたらと信じてはならないし、一分為二つのものが分かれて二つ
になる（訝訝）の見方で正しくそれぞれを見なければならないうち、それぞれの面でいくなり「優勢」
わかり相対的なものでしかありません。

では、こうした「優勢」について具体的に分析してみましょう。

空軍戦では、速度が増せば、照準をあわせて射撃する時間が短くなるので、命中率も落ちま
<br>　なぜかわかりますかから、敵機は空を切って前方へ突進してゆきます。敵機がわ
<br>　したんに攻撃してきたとき、わたしたちは勢いに乗じ、横つま、猛烈な攻撃をかけて、撃ち落とすこ
<br>　というのを積むことができます。けれども、ミサイルは敵機を積んでいないので攻撃の
<br>　速度も落ち、動きもふるります。これは、わたしたちに乗る相手をあたえます。もっと
<br>　近くしていきさえすれば、ミサイルは遠距離から直接発射できないので、わたしたたちが大胆に敵機に接
<br>　ち、かれらは自分をやっつけることにもなるのです。昨年、ミサイルを積んだアメリカ
帝国主義の飛行機がわが国の海棲島上空に侵入してきました。そのとき、わが海軍航空兵が近近すると、敵はあわれためいて、むやみやたらとミサイルを撃ち続けてきた。けれども、わたしたちに命中するところか、かえって、味方の一機を撃ち落としてしまい、もの悲しいのだったのです。

『滞空時間が長い』ということ。アメリカ帝国主義は対外侵略をやるために、飛行機の往復飛行時間がかなり長いのです。けれども、基地を遠くはなれて他国で作戦をおこなっているため、それなりに、往復の時間がかかるのです。実際に作戦にかかる時間はたいして多くはありません。それには、アメリカの空中強盗の「優勢」にたいするわたしたちの考え方です。わたしたちが反動的で、するしかなければならない、命を惜しみ死をおそれています。もちろん、アメリカの軍種や兵力も対立しているからです。たとえ彼らが、「兵器は戦争の重要な要素である」（持久戦）であるが、決定的な要素ではなく、決定的な要素は物ではなくて人間である。
が、わたしたちはわたしたちの優勢をたのんでたかつるのでです。勇

さの源は毛沢東思想である

わたしたちプロレタリア革命戦士の勇敢さは偉大な毛沢東思想から生まれるものです。それ

は、誠心誠意、人民に奉仕する革命的な品性をあらわしたもので

す。わたしは、ほかでもなくてもこの精神の原子爆弾によ

って決してやる敵にうち勝つのです。

勇敢さの源は毛沢東思想である

わたしたちプロレタリア革命戦士の勇敢さは偉大な毛沢東思想から生まれるもので

す。それ

は、誠心誠意、人民に奉仕する革命的な品性をあらわしたもので

す。わたしは、ほかでもなくてもこの精神の原子爆弾によ

って決してやる敵にうち勝つのです。
し、隊長機をひとつよく守ることでしょう。けれど、わたしは、隊長機をほうとうておいて、

万一事故でもおきたら自分が責任を問われるという私心や雑念にとらわれていたものですから、

敵を攻撃しようと思いながらも攻撃にふれるわけませんでした。そして敵機を撃ち落とさなかったばかりか、危うく敵

弾に当たるところでした。けれど、同じ戦闘で、わたしたちの隊の他の僚機の飛行士は、わた

しとほとんど同じ条件にあるのに、あくまで敵をやっつけようという一念で、積極的に行

動して隊長機を護衛するとき、敵の一機を撃ち落としました。わかりかな対策をなすものです。

わたしがこのとき、兵器が新式なものであるから、敵の一部一機を撃ち落としました。わかりかな対策をなすものです。

以前、わたしはこう考えていました。自分は貧しい家庭に生まれたのだから、思想は純潔

な勝利もかたちとすることができますが、私心や雑念があれば、かたちとレタリア思想に純潔性が

少ないものであるという決意をいっそう痛めました。かくして、わたしたちは自分の欠点を大目に見てきたのです。けれど、こんどは、この度の戦闘をつう

して、わたしたちは、毛主席のこの教えを読んだとき、わたしたちはひじょうに感動して、かたちとした思想

において、くれた者たちは胸がいっぱいになるのには、また犠牲にしきれない個人の利益

がいわば努力になるのに、まだ犠牲になしきれない個人の利益

を解釈しなければならない。そして、なにか欠点があるとしても、思想の改造は長い時間をかかけるものなので、まあ、

何事も、わたしは自分一人の損得にばかりとらわれている個人主義の問題をあくも考えません。それなら、こんどは、この度の戦闘をつう

して、すでにありましたまいしています。そして、ある期間たびに、すっかりあらためられたかどう

かをまとめてみました。こうして、小さな勝利が積みかかって大きな勝利となり、私心がだ
なんだらなくなり「公」の心が強くなって、勇気もひとりでねいてくるようになっていったので
す。その後、ある空戦でわたしは敵機を追撃したことがありました。接近しようすると、
地上の指揮員から「発砲せよ」という指示をうけました。発砲が早すぎる結果、敵を消滅するのに不利です。以前だった
一人の損得などなく、ひたすら敵をやつけてやろうと思いましていたので、状況を考えてそ
のまま飛びつづけました。そして、いまこそというときになってはじめて発砲し、敵機を撃ち
落としたのです。

ところはいうもの。わたしにもう私心や悪念がまるでなくなっ
たというわけではありません。決して、思想闘争は長い期間かかるものではな
いや、まだまだあるのです。なぜなら、思想闘争とは長い期間かかるものでし
か、西風が東風を圧倒するかのどちらかです。思想上の敵にうち勝つには、偉大な毛沢東思想
にたよらなければならない。わたしたちの頭のなかに毛沢東思想が多くなければなるほど、私
心や雑念は少なくなり、勇敢な精神も多くなるのです。毛主席の著作を読み、毛主席の教えに
したがい、毛主席の指示どおりに仕事をしてこそ、闘争することを幸福と考え、革命に身をさ
せることになる。われわれがすすめている戦争は、疑いもなく最終的な戦争の一部であ
る」（『中国革命戦争の戦略問題』）とこれで、このような克拉光栄な事業です。革命戦士
としての最大の幸福です。もし、アメリカ帝国主義が戦争をわたしたちに押しつけてくるな
なら、わたしたちは断固として、徹底的に、きれいに、のこらずかからを消滅してしまおうでしょ
う。
唯物論証法を用いて
戦士の思想転化的工作をおこなう

中国人民解放軍紅色第九中隊指導員
陳金元

中隊の政治思想工作というのは、戦士の思想を転化させる工作のことです。つまり、毛沢東思想で戦士の頭を武装し、プロレタリア階級の思想の陣地をたえず強化し、拡大し、さまざまな非プロレタリア思想を克服し、毛沢東思想を戦士の頭のなかにしっかりとえつけ、おくれたものをすすんだものに変え、すすんだものをいちそうすすんだものに変えることです。この工作をしっかりやるとには、ながらよりさまざま、前の事業のことを考え、第三の事業のことを考え、過去の事業のことを考え、中隊の建設のことを考え、正しい思想方法と工作方法がなければなりません。同時にまた、正しい思想方法と工作方法がなければなりません。唯物論証法です。わたしたちは実際の工作中で、弁証法

① 陳金元は陳げんさい解放軍蔭蔽師の連隊政治部副主任をつとめている。
以前、わたしたちは、一部のおくれた同志たちをまったたく見ていませんでした。それが、いついったかかれらに冷淡な態度をとったり、ほとんどする批判をしたりして、かれらの自信を失わせていきました。いったいどこに原因があったのでしょうか。また、他の同志たちに援助する自信を失わせていた。そこで、われわれ同志たちは、一貫した方法で根本的に分析することができなかったからです。そして、かれらの欠点を重く見た問題と見たため、かれらも進歩できることを信じなかったのです。

夜間捜査訓練をおこなったとき、かれらに仮想敵の役を務めさせたのだ。が、いま問題を全員に、一般的な問題を本質的な問題と見なして、われわれ同志たちは捜査をはじめる段になると、どこへいったのか見えてこなくなったのです。そこで、かれらの長所をみつけては、各個的の方法で、一つ一つ戦闘し、かれの長所をみつけては、くりかえし話してやり、たえずもってやりました。このやり方はこの戦士の積極性をぐっと引き立て、とうとうかれを大きく変わらせたのです。
あるものと考える」（『矛盾論』）と毛主席はいっています。おくれた同志の思想を振らせる工作のうえでもっとも重要なことは、かれらが自分からすんで思想上の「けんか」をつくるさ
せ、自覚して自分を改造することにたよりなければならないうことでです。おくれた同志は
自分の思想と「けんか」をつくるはじめて、頭の中のプロレタリア思想が非プロレタリア思想を
うちやぶらせることができるのです。しかも、自分で自分の思想と「けんか」しないで、他人の力
を借りて自分の思想を「けんか」するだけならば、勝てないばかりか、ひらめあいにして、どうにこうにも
ならないでしょうでしょう。

われわれも、外因も事物の発展に重要な作用を果たします。指導部や同志たちの援助は、おくれ
た同志が変化するのに、大きな影響力をもっています。わたしたちは、内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志がプロレタリア思想を助けするには、政治を突き出させ、生きた思想をつかんで、おくれ
た同志を助けける責任をのがれ、かれらをほったらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほったらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほったらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほったらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしておくようなことがあっ
てはなりません。もちろん、外因は内因をつなげてはじめて作用するもので
す。おくれた同志は、内因の作用ばかりを強
調して、おくれた同志を助けける責任をのがれ、かれらをほいたらかしてお
毛主席の著作の学習をはじめばかりのところ、かれは自分の思想にふれようとした。一件事情やることばは別に、口では「一分二」をいいながら、実際にには、自分の長所ばかり見て、他家の欠点ばかり見るように、分隊のなかでうまく団結できませんでした。あるとき、かれが「一分二」についての文章を学習していたので、わたしはかれにだそねました。話してあげましょうか。わたしは「どうしよう」と答えました。「一分二」の立場で自分の思想をよくわかり分析して、それを正しく自分の考え方をいう段になって、どうもおかしいと感じました。指導員は「一分二」について話せというたけれど、自分処の考え方を取るといふわけ。実際に活動のなかで服用して、思想を大きく進歩させました。かれは自分処の考えを服することができた。毛沢東思想で自分処の考えを服することができた。自分処の考えを服することができた。

一人ひとりの同志の長所をさがしだした、それとくらべて、自分の八つのおくれているところを深く体得したことつぎのように語りました。「一分二」を学ぶとき、分析することができた。あるものは問題の気のつき方がおそいでしょうし、あるものははやいでしょう。だから、具体的に分析して、区別してあたることが必要で、なにみかし、刀のものに切りすぎてきたり、こうした考えをわがて、毛沢東思想で自分処のおくれた考えを服することができた。
環境をつくりださなければならない、一人に欠点があったらみんなが助けて、どこにでもあたたかい手があるようにならなければならないのです。おくれたが関心を欠す、政治的な気を大いに濃くし、原則性を大いに強く、一人一人問題がたまったり、もうなじみのくなったが関係する作業は効果をあげることができないのでしょう。これは、おくれた同志が
すすんだ方向に転化するうえで不利となります。

おくれたもののがすんだものに

変わるのは、反復した闘争の過程である

おくれたもののがすんだものに変わるのは、単なるものとはありませんし、しばしば長い困

雑な闘争の過程が必要です。プロレタリア思想を立ち立てるには非プロレタリア思想を克服し

なければならない、唯物論証法の観点をうたり立てるには形上空の観点を克服しなければなり

ませんし、唯物論証法の観点をうたり立てるには形上空の観点を克服しなければならない。
は、せっかちな炊事員が釜の中の米のことなどおかまいなしに、どんなどがどの火をやまず、結果になるだけでです。おそらく、動機はよくてもさっぱり効果はあがらず、おくれた同志をいよいよ気落ちさせることになろうものですが。

おくれたものがすすんだものに変わるとは、量から質への変化の過程であって、一定の段階に達してはじめて急激にすむ、飛躍がうまれるのはのです。変化しはじめたばかりのときは、問題にたどるおくれた同志の認識は、すすんだ同志のようにはっきりしてはいないので、問題の処理もすすんだ同志のように正しくはいきません。しばらく思想と行動がつながらないものです。ある同志は行動ではやっていているけれど、思想認識はまだそれほど自覚的ではありません。たちはこう考えます、おくれた同志のこのようないずれは、成長する小さな苗なので、たとえ行動がとまらなくても「言行が一致しない」というよりよい援助をあたえることはできません。

おくれた同志が進歩していく過程では、一般にどれでも、気分が高ぶったり沈んだり、ふるいおりかけしつつある問題を解決することを承認し、そのくらいかえしを認識し、そのくらいかえしをできるだけ少しなくすることができるのです。第六分隊に、ふるい習慣がそこまでできなくなってしまっているため、しようという口論やけになかをする同志が増えました。はじめ、かれは分隊長と口論をやったので、わたたちはかれがまだ若く未熟のせいだと思って、かれと話しあいまし。
いただいてどこかほんとは他の同志とけんかをやり、訓練さえもうばっかそうとしています。そこでわたしたちがあきれたことに、しばらくするとまた、もう一人の同志とけんかをやり、おこって飯もくわす。
無断で町にビスケットを買いにいってしまったのか？

しかし分析し、研究してみて、その原因がはっきりしました。ところでわたしたちがふるい続け、一方では、かれの美しい欠点がまだ徹底的にあらわれているので、誤りを犯されたこと、$tmp$のように思想上に二つの力があって、鏃引きのように引っぱったり、捅ばれたりの激しい闘争がおこなわれているので、誤りを犯した者が検討し、検討したらまた誤りを犯して、誤りと検討が何度もくりかえされるということになるのです。それゆえ、われわれは考えをすすめ、かれの階級の自覚を根本から高めるようにつとめました。それと同時に、みんながかれに進歩する条件をつくり出してやるとともに、誤りを犯す条件をなくしてやらなければなりません。お互いにたいていは「分為二」で見なしなければなりません。すんだ思想が優勢を占めたときは、皆さん夢が優勢を占めたときは、気をゆるめ、がっちりしたりしないように教育しなければなりません。すんだ思想が優勢を占めたときは、みちどりの夢が優勢を占めたときは、夢を切っていきません。
すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいしても「二為二」で見、すすんだものにたいても
否定してしまうようなことを言ったのです。その結果、これらの同志の積極性をくじくことになりました。わたしたちの中隊に劉国良という同志がいいますが、かれは入隊したばかりで、思想が大きく変わっていて、すすんだ戦士の隊列にはいるようになりました。かれは長所を売り出すために、冷たい風をまきおとし始めたのです。あるとき、かれは中隊本部に申告もせずにはいっていくと、指導者があいだのでそこそとどいてきました。まえは相変わらず昔のままだじゃないか、といったため、仕事にたいする情熱は一時すっかりさめてしまい、相変わらず昔のままだじゃないか、というのです。劉国良の欠点は長所にくらべれば一本の指と九本の指のようなものだから、かれに欠点があるから、要したとはなりませんが、形で上級の思想をいったそう強く突出して、すすんだ要素をつかまえることをおろそかにして、欠点ばかりかまるから、すすんだ要素を克服するうえで、ほんとうに役立つことになるのです。すすんだものをいったそうすすんだものにするには、かれらの弱い環をつかまえるかに、すすんだ要素をつかまえることが必要で、非プロレタリア思想といつては、そうはつまりえないстранな思想で、形で上級の思想をいったそう強く突出して、すすんだ要素をつかまえることをおろそかにして、欠点ばかりかまるから、すすんだ要素を克服するうえで、ほんとうに役立つことになるのです。
善意からなのですが、すんだものにたいしては欠点をしっかりつかまえなければならないと考えて、かれが学習に努力したり、大柄に創造しようとしたりする精神をふるいたさせることに気をくばらず、逆に、かれの生活上のあれこれの欠点をとらえて、必要以上に批判したり、非難したりしました。そのために、この同志は小さなことばかりかまって、大きなことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいしました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなってしまいました。わたしたちは、これの教訓から、すんだ同志にたいして、一時進歩があたってしまいました。わたしたちは、この同志は弱い環を克服するように助けなければならないけれども、大切なことをはうっておき、生活上の欠点を改めることばかり気をくばり、よい面を十分にのぼすことができなくなしま
だが未だ、我々はいまだに未熟である。しかし、我々は自分たちの社会を変革するための努力を続ける。自分たちの思考を改革し、社会の問題を解決するために、我々は前進を続ける。

（社会主義の設立）
するようになったのは、「雷鋒同志」学ぼう」という毛主席の言葉が広く知られ、共産主義の教育が盛んに行われ、雷鋒同志の精神が人々に根付いたからである。すなわち、雷鋒同志は平凡でも驚くほど偉大なことをやった証拠である。

すなわち、雷鋒同志は、毛主席の著作を学び、自身の思想改造を努め、共産主義の教義を深く理解していた。毛主席の著作は、社会の階級間の対立を調和させるための教育を目的としており、雷鋒同志はその中で自己革新を進めた。

雷鋒同志は、毛主席の思想を学び、自身の思想を刷新し、自己の精神を強くし、様々な問題を解決するために努力した。これが、雷鋒同志の精神としての特徴である。
いまのちでんでるでしょう。
こうした問題をもって、わたしが、毛主席の人民内部の矛盾を正しく処理する問題について述べるべきで、永遠に停止してはならない。毛主席はそれでもみな改革する必要があると考えているのです。わたしがの欠点はなんだろか。さまざまなことの中から、わたしが、自分は改革する必要はないという「生まれつき赤い」思想を克服しなければならないことに気がつきました。

社会主義の時代の青年は生まれつき赤いはずがあるだろう。わたしが、自分が以前考えていた赤い思想は一種の、素朴な階級感情にすぎないから、社会主義が個人にもたらした幸福感から生まれたものであることを考えました。こうした素朴な階級感情はわたしたちに比較的はやく毛沢東思想を受け入れさせたのです。しかし、こうした素朴な階級感情は、社会主義社会が進んで個人にだけ幸福をもたらすものではない、ということを毛沢東思想で武装し、一生懸命革命の道を歩むべきであることを自覚しています。

共産主義の新人を目標に自己改造する

毛主席の著作を学び、思想を改造していることがはっきりしてから、わたしが、毛主席、その他の人々の著作を真剣に学び、毛沢東思想を武器にして、思想改造や世界観の自覚して自己を改造しなければならないということを自覚してから、王三一、
一人の趣味と革命の必要

わたしたちは小さいときにから絵が好きで、美術専門学校の付属中学を卒業して入隊するとき、画板を背負ってきました。部隊にくると、わたしたちはそうですか言うような生活にすっかり引きつけられました。なぜなら、こここそはいちばん豊かな創作の源をさがしにいってもよかったから、と。

一方、彼女が責任者に連隊史を執筆したのです。当時、彼女はどうも納得できないので、学習にいかずにいたかったのです。

社会ではいくら技術があっても、貧乏人が飯が食べず、生きていけないので、革命が必要だったのです。これが、『老三篇』をしっかりと学習するようにとすすめてくれました。わたしたち、学習をしたくて、ペチューヌーを記念する学びを大切にしていたのです。

革命が来ると、思想がぐらつくのです。そのたびに、わたしたちはペチューヌーを記念する学びを大切にしていたのです。個々の趣味を大切にし、革命の必要で個々の趣味にとってはかえって面白くなったのです。
わたしたちが党の必要からならば、人民に奉仕する目的からならば、個人の趣味や愛好をのばしてよいということではなく、人民に奉仕するためにさまざまなものを学べということです。もし、革命の必要からなれば個人の趣味や専門をのばすなら、ブルジョア個人主義者になってしまうでしょう。このことがわかってきたからな、なにを考えてみましょう。それと同時に、絵筆をすててないで自分からすすんで黒板新聞をつくる。それは自覚的服従して、いっぴにやるようなこと。ローガンをかいたり、いっぱい人びとやすばらしい出来事を絵にかいたりしました。わたしたちは、革命の必要からなれば個人の趣味は十分にその力を発揮でき、革命の先輩たちがどのように苦しみをなめ、いまの世の中をつくりだしてくれたのにも、わたしたちの世代のものに幸福な生活をおくるためのものです。だから、わたしたちは家にいたとき、絵のあたった服など着ませんで、あるとき、母が父のふるい上衣をつくったり話す。そこで、入隊後の一期、部隊の生活は、家にいるときほど、居心地がよくはありませんでした。
革命の先輩たちは、わたしたちと同じ年ごろには、もう革命という荷物を背負い、血を流してたかっていたのです。かれらは階級の解放、民族の解放という大事を考えていたのです。そして、いまはまだ、どのようにして、プロレタリア階級の革命を勝ち取るかを考えています。なぜ、「山をもとめる」ことだけを考えれば、「木を植える」と考えなきゃなりません。かれらは、いま、刻苦奮闘の作風をもつっています。「山をもとめる」ことで、「木を植える」と考えているのです。

「山をもとめる」ことだけを考えれば、「木を植える」と考えなきゃなりません。かれらは、いま、刻苦奮闘の作風をもつっています。「山をもとめる」ことで、「木を植える」と考えているのです。

国が経済的には貧しく、文化的には立ちこまれた国家であることを忘れ、自分の肩にかかって、大切な社会主義社会をつくろうと努めています。だれか深く理解することが容易でない。毛主主席のこの言葉にわたしたしの思想はとても大きな衝撃を受けました。したがって、わたしならの見方があらわれました。わたしならに突っこんで考えてみた。いつも心がけれてきました。あるとき、家に送金しようと思ったのですが、ある同志にあがりました。自分ほど労働し、自分ほど人生に奉仕することができない。自分ほどかわらぬ勇気をもって、自分は何度もお金がいっぱい必要らしかったのです。わたしたしはもう一度考え直し、自分は何度こころまで、みんなに道をさがしてやろうと心誠意人民に奉仕することを最大の楽しみ、最大の幸福にしなければなりません。その後、わたしたし、思い切って自分の大切なことを最大の楽しみ、最大の幸福にしなければなりません。プロレタリア階級の幸福は闘争であり、革命であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争であり、闘争があ
三、祖国をまもることと革命をやること

一九三六年八月、わたしが入隊したとき、蔭介石反動派が大蔭反攻をわたっていきました。そのとき、わたしがこの人食い野兎がふたたびわたしたちの頭上にふんわりかかるのを断じて許してはならないと思いました。たくさんを来ていて、全世界の人民に社会主義、共産主義の波をもたらさなければならぬのです。

祖 国をまもることと革命をやること

もう知り、プロレタリア階級の幸福観をうら立ててこそ、もっとも幸福な人間になるのだと
いうことが分かりました。ブルジョア個人主義にとりつかれた人間、私心の多い人間は個人の
望がいつまでもないのです。こんな人間は永遠に幸福になることはできません。わた
たちはいま、たしかに革命の先輩たちが鮮血と生命によってもたらしてくれた幸福な生活を
またっているのです。たしかに「łeをもとめて」います。けれども、わたしたちは道々をもとめる人
間になるだけではだめで、まず木を植える人間にならなければなりません。わた
したちはいま、たしかに革命の先輩たちが鮮血と生命によってもたらしてくれた幸福な生活を
またっているのです。たしかに「łeをもとめて」います。けれども、わたしたちは道々をもとめる人
間になるだけではだめで、まず木を植える人間にならなければならないのです。
責任者の話を聞いて、わたしは「ベトナムを記念する」をひらいてみました。毛主席は、われわれはすべての資本主義国とプロレタリア階級を固結し、わが民族と人民を解放する利己的な動機も少なく、中国人民の解放事業を自分自身の事としていた国際主義の精神、共産主義の精神を学ぶように教えています。わたしはこれによって、プロレタリア階級の解放事業がもとと国際的なものなのだということを知りました。だからこそ、ベトナム同志は、中国人民の解放事業を自分自身の事業としたのです。

その後、中隊では懐かし（旧社会でかわかった階級的な苦しみ）を思い出し、階級感情を深めるための集会が組織されました。わたしはくくりかえし考えました。旧社会の地主や資本家はなせのように残酷に労働者や農民を搾取したり、抑制したりできたのだろうか。毛主席の著作を学習して、わたしははっきりしました。地主や資本家は国民党反動派に尻押しされていたからなのです。だからこそ、ベトナム同志は、アメリカ帝国主義と各国反動派は地主、資本家の利益をもたせぬことのです。国際主義の戦士にならなければなりません。世界人民のために革命をやることをいう思想があれば、自分にたいする要求もうかないといい訓練をしようとしたのですから、ある同志が現代の戦争で銃剣術などを習ってきましたが、ある同志が現代の戦争で銃剣術を教えているかどうかが分かりません。世界人民のための革命をやることをいう思想があれば、自分にたいする要求もうかないといい訓練をしようとしたのです。世界人民のための革命をやることをいう思想があれば、自分にたいする要求もうかないといい訓練をしようとしたのです。世界人民のための革命をやることをいう思想があれば、自分にたいする要求もうかないといい訓練をしようとしたのです。
われわれは「自衛戦で原爆撃いかしをうたまり」という文章を持っておかなければならないと。

四陽光与苗
去年、わたしたちは「銃剣術の訓練について」という記事を書きましたが、それが新聞になった年に、「東京」に到着していこうと希望を抱きました。このとき、わたしたが考えたのは、「これの思想はいったい自分どう思うかという問題です。わたしが考えたのは、この思想はいったい自分どう思うかということでした。しかし、それでは考え方がどうなるかということですね。 Philipp Reisの「われわれは」の意味をはっきりさせることは、考えてみできません。去りをし、それを考えたのではありません。去りをし、それを考えたのではありません。

大きな問題を決めていかなかったので、へそを吸うことを恐れて、やりたくありませんでした。けど、この思想はいったい自分どう思うかと、考えてみたのです。去りをし、それを考えたのではありません。去りをし、それを考えたのではありません。

長い間訓練をやっていたかなかったので、へそを吸うことを恐れて、やりたくありませんでした。けど、この思想はいったい自分どう思うかと、考えてみたのです。去りをし、それを考えたのではありません。去りをし、それを考えたのではありません。

今年のはじめ、北京の人民大会堂に報告にいったとき、多いの同志たちがそれを手に持って見ました。そのとき、近くの人のために、彼女が人民大会堂に報告にいったことを同志たちに知らせていなかったのです。そこで、わたしたは、入場券の字を印刷してある上半分をそっと切りとり、残りの小さな空白に「私心と自衛戦をやる」と書いて、思想に悪い考えをしたときには、どうかそれに用心をしましょう。
した。

わたしはこのことを長いあいだ考えました。そして、自分の学習の成果をどう見るか、それは栄誉にりっぱに対処できるかどうかのカギであると思いでした。毛主席の著作の学習をはじめたとき、わたしは、問題をもってやることができませんでした。やろう責任者や同志たちが、問題をつけてくれましたし、わたしが用い、総括するのをたすけてくれました。わたしの成長は、小さな苗が実り豊かな作物に成長するのに大陽からはなることか、できないように、かつときも毛沢東思想からはなることができないのです。毛作のときには、人は本当にすばらしいところだと思えて、いろいろと勉強してくれます。わたしの学習が成長をあげると、人が一本の小さな苗にはきず、作物に成長するには、すべて毛沢東思想にたらないわけならばないということをよくわかっています。毛沢東思想はわたしの心の中の永遠に沈まぬ真紅の太陽です。わたしたちは自分を永遠に、太陽からかたときもはなれることのない苗とみなさ
毛沢東思想で私心や雑念と「白兵戦」をする

わたしは、毛主席の著作をしっかり学び、りっぱに用い、毛沢東思想を用いて自分の頭の中のプルジョー思想をたたかうことができるように、毛沢東思想の著作をたたかうことを知りました。これにいたる意識をたたかう高め、毛主席の著作をたたかうということができたのです。そうでなければ、毛沢東思想の著作をたたかうことができるのです。
（二）毛主席のことばは、とくに多くの基本的観点と名言は暗記しなければなりません。暗記していれば問題にぶつかったとき、思いだすことができます。学習をはじめたばかりのころは、問題はうまく処理できませんでした。その後、いつも学び、いつも用い、いつもおぼえたの暗記するというのでは、頭の中にしまっておくということではありません。行動にあらわすということなのです。暗記していれば、いつでも学び、いつでも用いることができます。思想と行動がいつづく自覚的になるのです。

（二）自分の「形象」をつくっておいて、思想改造の手本を自分にえらんでやらないかければなりません。つまり、自分の頭の中の形象を手本にして、それからできることで、その後、雷鋒に学んで、「公」と「私」に正しく対処する形象がくわわりました。英雄先進的な人びとに学ぶたびに自分の思想改造の目標がふえていきまし

（三）頭にひらめいたものをうまくつかまえて、それが正しいかどうか、毛沢東思想にあっているかどうかをねかせた考え方をうまくつかまえて、それを手本にして、すべてのよくない形象とたたき、それらを改めた人びとの形象に学び、かれらを手本にして、すべてのよくない形象をたたきとつくりあげなければなりません。\n
ただ、中隊に「形象」があります。たとえば、中隊長の仕事にたいする責任感というものを持って、頭をあでられなくなってしまえ、胸がドキドキして、頭をあげられなくなってしまえ、
しまいました。けれど、わたしはすぐに、これがひじょうによくないということなんだと思いつて。

（四）每晩、「思想のフィルム」を現像してみること。人間の耳、目、鼻などの器官は写真機のシャッターのようなものです。これらの器官が見たり、聞いたり、かいたり、した側の外界の客観的物事は、かならず頭の中に印象として残るものであります。わたしが毎晩ペットドリとはなってから、思想のネガに写すことにしよう。毛主席のことばで「定着」して、洗いざらいするのです。毎日は必ず、人になったで「引伸し」でもらいます。もし、自覚してこのようにやらないうちに考えると、これは自分をあまやかす態度であって、こういうことに慣れたら、自分分を取り入れなければいけません。思想の定型化のためにならなければ、どうなろうこともありま

（五）肝心なところをかかえること。今年のはじめ、わたしは出張から帰って指導員のところへ思想状況を報告しにいったのですが、報告が終わったときにはもう十時を過ぎていました。指導員はわたしに中隊の全部にとまっていくようにといて、もうちゃんとふんもしかれていませんでした。わたしな、自分は小隊長だけれど、こうしばらさく小隊にいなかたのだから、ひと晩くらい中隊の全部にとまったって別に悪い。影響なんかいないだろうと思われたのです。しかし、
毛沢東選集（第一巻）

★毛沢東著作★

本巻には、第一次国内革命戦争の時期（一九二七～一九三七年）と第二次国内革命戦争の時期（一九三七～一九四七年）における毛沢東同志の十七編の著作がおさめられている。

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国际書店（北京）
矛盾

抗日遊撃戦争の戦略問題

民族戦争における中国共産党の地位

持続戦について

青年運動の方向

戦争と戦略の問題

統一戦線における独立自主の問題

中共革命と中国共産党

新民主主義論

新民主主義の憲政

政府について

政策について

『農村調査』のはしがきとあとがき

党八路に反対しよう

党の作风を整えよう

わわれの学習を改革しよう

指導方法のいくつかの問題について

組織せよ

学習と時局
重要決定
理論論文

人民戦争の勝利万歳

一 中国人民の抗日戦争勝利二十周年を記念して

目次

抗日戦争の時期における主要な矛盾と党の路線
統一戦線の路線と政策を正しく実行する
人民戦争の勝利を確保するための重要な意義

林彪

四〇四

各国の革命的人民の勝利への道

画期的な文献

中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定

中国共産党第八期中央委員会第十二回総会の公報

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）
近刊予告

★毛沢東著作★

井岡山の闘争
抗日戦争勝利後の時局とわれわれの方針
重慶交渉について
当面の情勢とわれわれの任務
山西・総遠解放区幹部会議での演説
党員会制度の健全化について
革命を最後まで遂行せよ
人民民主主義独裁について
白書を評す

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国际书店（北京）